



DNW-21006 の概要

課題名 : 代謝産物センサーの機能制御に基づく新規糖尿病治療薬の探索
主任研究者 (Principal Investigator) :
関谷 元博 (国立大学法人筑波大学医学医療系)
ステージ: 標的検証後期

【標的疾患】

2 型糖尿病

【創薬標的】

タンパク質 X

【創薬コンセプト】

代謝産物センサーとして機能するタンパク質 X を活性化させることで糖尿病病態の背景にある糖・脂質代謝異常を多面的に改善する経口投与可能な薬剤

【モダリティの設定】

低分子化合物

【創薬コンセプトの妥当性を支持するエビデンス】

以下のことが PI らにより明らかにされている。

- 1) タンパク質 X の活性化により糖新生と脂質合成が抑制される。
- 2) タンパク質 X は肥満病態で不活化されていることから、特に肥満や脂肪肝を合併した患者において有効性が期待される。

【科学的、技術的な優位性】

代謝制御システムに着目した新たなコンセプトで糖尿病治療を目指した課題である。創薬コンセプトに基づく糖尿病の治療により、糖尿病の長期予後に関与する血管障害の抑制が期待できる。

PI の所属するグループは糖尿病、メタボリックシンドローム、脂質異常症、肥満症などの生活習慣病や内分泌疾患を診療及び研究の対象としており、これまでも数多くの有用な研究成果を報告している。PI らのみが有する研究ツールが複数存在する。

【支援ステージにおける目標】

モデル動物を用いて創薬コンセプトによる糖尿病治療に関するエビデンスを取得する。

【関連特許】

無し

本資料は、創薬総合支援事業（創薬ブースター）による支援の終了時の情報をもとに作成しています。